

■学位論文内容要旨

幼稚園における特別支援教育の質を高めるための記録シートの検討

國京 恵子 (2016年度修了)

【研究の背景と目的】

幼稚園では、受け持ったクラスの子どもたちの園生活は、ほぼ全般にわたって一人の保育者が保育していることが多い。発達障害の特徴は、個々の子どもで異なり、加えて健常児との関係性も難しい。幼稚園教諭は、発達障害の子どもとの関係、その子とクラス集団との問題、保護者への対応や理解を求めるなど多忙な毎日である。

とくに経験の少ない保育者は、発達障害の子どもの問題を一人で抱え込んでしまう傾向がある。その課題として多忙化の問題と同僚性の構築がある。保育者は、腹を割って相談することが自己の低い力量評価に繋がりはしないかという不安がある。また、多忙化の中で保育者間の相談ごとは、会話で簡単に済ませてしまい、文字に残らないことが多く、自分の保育の省察に繋がりにくい。

保育者を支援する視点から、同僚間の相談が日常的に行われ、それが問題の共有につながり、保育者双方に専門性と保育の質が高まることが望ましい。それには、実践を記録し、同僚間で話し合うことで保育を客観的にとらえていくことが必要である。

本研究では、幼稚園における特別支援教育の質を高めるための記録シートについて検討することを目的とする。そのために多忙化と同僚性の構築について整理し、記録の重要性を把握し、様々な記録方法を分析し、経験の浅い保育者でも取り組みやすく同僚性の構築に役立つ記録シートを提案する。

【研究の方法】

本研究の方法は、以下の3つである。第1に発達障害

の子どもを担当する幼稚園教諭の実践において、障害をもった子どもの生活のしづらさや保育者の困り感、多忙化の問題、同僚性構築の難しさと必要性を整理する。第2にその問題を解決する方法の一つとして、記録に焦点をあて、記録をとることの意義や重要性を分析する。第3に様々な記録を整理し、多忙な中でも保育者が負担に思わず、気軽に書け、その活用が同僚性の構築を促し、保育の専門性がより高まるなど、特別支援教育の質を高めるための記録シートの提案を試みる。

【研究の結果】

発達障害の子どもの特徴は、一様ではなく、クラス担任が、発達障害の子を含むクラス運営に困り、一人で問題を抱え込む傾向がある。経験の浅い保育者は、多様化する役割と様々な教育困難を抱え、多忙な毎日である。同僚間で問題を共有し、相互に専門性を高め、より質の高い特別支援教育へ導くことが重要である。そこで記録が、消えていく話し合いや記憶では得られない利点があることに着目した。

実践記録を書くことの意味を分析した結果、以下のことが明確になってきた。記録することによって、子どもの実体をより深く見つめることができ、多くの子どもの中の一人ではなく、その子を愛おしく思える瞬間を得ることができること。話すだけでは消えてしまう事実を何度も省察することを可能にし、それをもとに同僚や上司あるいは巡回相談の際にも共有化することができること。さらに、少し先の保育の見通しも立ち保育計画にも役立つなど、総合的に特別支援教育の質的向上が得られることが分かり、保育者にとって有益な手立てとなることが明らかになった。記録を書けないという課題は、記

録の活用方法にあると考え、保育者、同僚、上司などを含めて、記録を改めて意識化する必要がある。

保育実践の場において「記録」と呼ばれるものは数多く存在する。教育課程・年間保育計画・期の計画・月間保育計画・週間保育計画・日案など計画としての記録、園日誌・保育日誌・幼稚園指導要録など残さなければならない記録のほかに、保育を深めるためにあるエピソード記述、シナリオ型実践記録、保育マップ型記録、ドキュメンテーション型記録、くもの巣型記録、場面記録などの実践記録や、園だより・クラスだよりなどメッセージとしての記録など多くある。それぞれの記録方法を分析することにより、「子どものことば」「友達との関わり」「子どもの権利」の重要な視点が得られた。その結果に基づいて、実践者にとって書くことが負担にならず、子どもの成長が見えることで、保育を省察し見通しがもて、さらに同僚性の構築が自然に生まれる可能性をもつ、特別支援教育に特化した記録シートの提案をし「スポット記録」と名付けた（表1）。

この記録シートは、特別支援教育につながる9つの特徴を含んでいる。①類似の事例が比較可能、②時間帯が明確、③保育時間内記入の短縮化、④保育後に、事例と保育者の対応を記入、⑤「タイトル」明記による検索可能、⑥同僚性の構築、⑦個別・事例ごと整理可能、⑧職員室など保育者のみ閲覧可能な場に掲示、同僚間で共有可能、⑨保育の見通しが立つ「ふり返り」である。

この記録シートのポイントは、まず、タイトルによる事例の連続性を可能にし（一つの事例で終わる可能性も含む）、問題が発生しやすい時間帯の把握を可能にした点である。次に簡単な覚え書きから記憶をもとに記述す

ることは、同僚間で話し合うきっかけの役目を果たし、さらに掲示によって園内の共有化も図れる、話し合いによる保育者支援につなげるツールとしての役目を果たす。

この記録シートとあわせて、子どもの抱える問題をさらに明確にするために、1年間における発達障害の子どもの成長段階が、分かりやすいチェックリストも検討した。本郷一夫の「『気になる』子どもの行動チェックリスト」を基に、クラスを担当する1年間という期間で、子どもの発達の段階を把握する手だてになり、さらに成長の段階や過程が一目瞭然で分かるように改善した。以上の成果を踏まえ、この記録シートをチェックリストと併用して活用することによって、①子どもの実態把握、②保育の省察、③保育計画の見通し、④同僚性の構築、⑤保育の専門性の向上など保育者支援につながる5つの利点が想定できる。

【今後の課題】

提案した記録シートは、あくまでも小規模の幼稚園で多忙な経験の少ない保育者が活用することを想定したもので、どの園でも通用するとは言えないだろう。作成したスポット記録シートを一般化するためには、幼稚園の実践の場で活用できるものかどうかを検証する必要がある。その結果、得られた課題を明確にし、さらに精査する必要がある。クラス集団において年々増加傾向にある発達障害の子どもや気になる子を含めた、より質の高い特別支援教育を提供できる保育者支援につながる記録シートへと完成度を高めることが今後の課題である。

表1 スポット記録

スポット記録			年度	歳児	組	園児名	男・女	診断名	No.
①	②	③	④	／	()	／	()	／	()
9			覚えがき						No. 話し合いメモ 巡回・上司・同僚
10			事例と流れ						
11									
12									
13								ふり返り	
14									
3つの視点 子どものことば 友達との関わり 子どもの権利			保育者の対応						
記録者			保育歴	年	クラス人数()	男()	女()	ひとことタイトル	